



作文 1部

もんぶかくだいじんしょう
文部科学大臣賞

田んぼでそだついのち

岐阜県岐阜市立常磐小学校三年

名和里佳子

弟がさんぽをしていて、すごいものを見つけた。

お米の花だ。いねのほの先に、白い小さな花がいくつもさいている。とつてもかわいい。気にしないと気がつかないような白い花。わたしは毎日田んぼの横を通って学校に行っているのに、弟に教えてもらうまで、お米の花に気づかなかった。それくらい、ひっそりとしずかにさいている。お父さんも、お母さんも、お姉ちゃんも来て、みんなで見た。

この花が、お米の一つぶ一つぶになるんだな…と思うと、なんだかジーンとした。お米の花は、朝の二時間ほどしかさかないと分かった。すてきな朝の発見だ。弟はいつも田んぼばかり見ているから、本当にすごい発見をしたのだと思う。

弟は虫が大好きだから、さんぽしながら、田んぼのあぜや田んぼの中を細かく見て、いつも虫をさが

している。弟といっしょに田んぼの中の様子をじっくり見てみると、田んぼの中には、びっくりするくらいたくさんの生き物がいる。どじょうやかぶとえび、おたまじゃくし、あめんぼ、みずすましやあまがえるなど…。わたしは弟といっしょにかえるをつかまえてあそぶ。かえるは、田んぼのまわりでうれしそうにとびはねている。まだ青いいねの上を、しおからとんぼがスウィーツととんでいく。

今お米を作っている元気な田んぼでは、田んぼの中の生き物が元気にそだっていると聞いた。そして、田んぼの中の生き物たちのおかげで、田んぼはえいようまんてんの土になって、お米はもつとおいしくなるそうさ。そして、そのおいしいお米を食べてわたしたちは生きている。

わたしたちも、田んぼの生き物たちも、田んぼに生かされているなかまだと思った。元気な田んぼを、これからもずっとずっと守っていききたい。